

ちば環境情報センター

C E I C



2026. 2. 13 発行

ニュースレター第342号

〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX:043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail:yatsudasukisuki@gmail.com, Home Page:<http://www.ceic.info/>

写真等無断転載禁止

山形県朝日町エコミュージアムを訪ねて 前編

ちば環境情報センターの情報収集の一環として、NPO法人 森づくりフォーラムの主催により開催された「朝日連峰のブナ原生林と修驗道のルーツを訪ねるエコツアー(2025年9月26~27日)」に参加した。その中で国内初のエコミュージアムが設置された山形県の朝日町を訪れ、地域の人々との交流を通じて、地域と自然のこれからについて考える。

参加するツアーオブジェクトの朝日町は山形県の中央部に位置し、磐梯朝日国立公園の朝日連峰が町西部に控える中山間地域の自然も歴史的にも文化的にも豊かで、日本初のエコミュージアムが生まれたことで知られている。

1. エコツアーの概要

- ・イベント名: 朝日連峰のブナ原生林と修驗道のルーツを訪ねるエコツアー
- ・主催団体: NPO法人 森づくりフォーラム 森づくり政策市民研究会
- ・コーディネーター: 佐藤岳利氏 (株佐藤岳利事務所、森づくりフォーラム理事)
- ・開催日時: 令和7年9月26日(金) ~ 9月27日(土)
- ・開催場所: 山形県朝日町
- ・イベントの目的: 朝日連峰のふもとに位置する山形県朝日町でエコツアー。数百年前から存在するブナ原生林のある「朝日連峰」での豊かな自然を体感、森づくりフォーラム代表理事 内山節氏の「日本の自然信仰と修驗道」をテーマとした講演、「まち全体を博物館、町民すべてが学芸員」というコンセプトで設立された朝日町エコミュージアムを訪れ、地域の人々との交流を通じて、地域と自然のこれからについて考える。

2. エコミュージアムとは?

エコミュージアムとは、「ある一定の文化圏を構成する地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を歴史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによつ

ちば環境情報センター 千葉市緑区 高山 邦明

て、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられている。名前は、生態学 (Ecology) と博物館 (Museum) からの造語で、通常の博物館のように物を集めて建物の中で保存するのではなく、遺産や文化財、自然物をそのまま現場に保存し、それを見てもらおうという野外博物館である。



その歴史は浅く、1970年代に国際博物館学会の会長であったフランスのアンリー・リビエール氏によって考えられた新しい博物館学の考え方で、フランスで地方文化の再確認と中央集権排除という思想の中で誕生し、フランス国内には50ヶ所を超えるエコミュージアムが設置され、スウェーデンやカナダなどにも普及している。

その運営は、住民参加を原則とし、住民と行政が一体となって、地域の生活、自然、文化などを歴史的に研究し、現地で保存、育成する。地域内にコアと呼ぶ中核施設（情報・調査研究センター）と、自然・文化・産業などの遺産を展示するサテライト（アンテナ）、新たな発見を見い出す小径（ディスカバリー・レイル）などを配置し、来訪者が地域社会をより積極的に理解するシステムとなっている。

1980年1月に発案者のリビエール氏によって「エコミュージアムの発展的定義」が作成されている。内容は以下のとおり。

1. エコミュージアムは行政と住民が一緒に構想し、運営していくものであり、行政は専門家と施設

や資金を、住民は知識と能力を提供しあって作り上げていくものである。

2. エコミュージアムは居住する地域の歴史・文化・生活などを理解して住民が自らを認識する場であるとともに、来訪者に自らが生活する地域を理解してもらうための場でもある。

3. 人間は伝統的・社会・産業社会の中でも自然と関わって生活してきており、それを理解する場所がエコミュージアムである。

4. エコミュージアムは先史時代から現在に至るまでの時間の流れの中で人々の生活を捉え、未来を展望していくものである。しかし、エコミュージアムは未来を決定する機関ではなく情報と批評的分析の役割を果たすところである。

5. エコミュージアムは歩いたり、見学することができる恵まれた空間である。

6. エコミュージアムは外部研究機関と協力しな

がら地域研究に貢献し、その分野の専門家を育成する「研究所」である。

7. エコミュージアムは自然遺産や文化遺産を保護し、活用を支援する「保存期間」である。

8. エコミュージアムは地域研究や遺産の保護活動に住民の参加を促し、将来、想定される地域の様々な問題に対し理解を深めるための「学校」である。

(出典「エコミュージアムについて」法政大学教授 馬場憲一)

日本で初めてのエコミュージアムが誕生したのが今回訪れた山形県朝日町である。その後、各地でエコミュージアムが設置されたが、主に行政主導による地域おこし事業としてあるいは開発に対する自然保護的な視点から取り組まれているケースが多く、博物館としての地域の自然・文化遺産の掘り起こしや記録、保存を住民の積極的な参加によって実現することが課題として認識されている。(つづく)

高齢期に向けた安全・経済・環境の三拍子がそろつた暖房戦略

市原市 南川忠男

高齢になり 20 リットルの灯油ポリタンクを運ぶのが重くなりました。

灯油ファンヒーターの運転に係る作業には 20 リットルの灯油を車で買いに行く、その灯油を駐車場の車から階段を 8 段上って家の中に入り台所横の置き場に置く、ファンヒーターの灯油が空になれば台所まで行って 20 リットルポリタンクからポンプで補充する。がありました。10 年くらい前は両手にふたつのポリタンクを持って運べたが、今はひとつでも重い。無理をしたら背骨を傷めるのではないかと思つてきました。

そこで、ガスファンヒーターを 2025 年 10 月に設置しました。床下でガス管を台所から 5 m 分岐させ、床を直径 2cm 貫通させ 設置したガスファンヒーターに接続の工事がされました。

使い始めは 11 月 18 日の急に外気温が 11℃ を切った(室温は 14℃) の日でした。

それから 1 か月で暖房用としてガスを 22m³ 使用しました。

これは熱量換算すると灯油 27ℓ に相当します。実際に感じる灯油換算量は 20 ℓ タンクひと缶半です。

ガスは立ち上がりが早く、嫌な臭いもせず 1 時間くらいして室内が暖かくなるのでガス燃焼を停止して、3.5kw 能力のエアコンを起動して室温を維持しています。最初からエアコンでは急に室温は上がらない。エアコンは暖房効率が高いので、ガス停止後はエアコンのみの運転とされています。

そして 8:30 頃にはエアコンも停止できるくらいになります。これが最も無駄が少なく、体感も良い

運転だと気が付きました。ガスは即暖で足元から暖房される(灯油は燃焼開始と停止時 臭いので嫌だった)。

燃料	当時の単価
都市ガス	120 円 / m ³
灯油	125 円 / ℓ

燃料	月額コスト
都市ガス	2600 円
灯油	3400 円

月間のコストは表のようにガスの方が 800 円安い。又、今回のケースでの CO₂ 排出量の比較(ここが大きな差)をしました。

排出係数(標準値)は都市ガス(13A) : 約 2.2 kg-CO₂ / m³、灯油 : 約 2.5 kg-CO₂ / ℓ なのでガス(22 m³) 22 × 2.2 ≈ 約 48 kg-CO₂ 灯油(27 L) 27 × 2.5 ≈ 約 68 kg-CO₂ と 1 か月で 20 kg の削減となり冬 4 か月で 80 kg-CO₂ 削減と計算でき、家庭レベルでも無視できない差となります。

灯油ヒーターの場合は 1 時間も使用していると室内の空気が汚れてきたと感じて換気するが、ガスは完全に燃えているのだと思いますが、空気の汚れを感じないので、1 時間使用すると自動で「換気警報」が出てくるので窓を開けて換気しています。

他の暖房対応としては就寝前はガスは使わず、エアコンの弱運転で ベッドは電気毛布で温めておき、就寝時に電気毛布はスイッチを切る。朝仕事を

する部屋では1枚余分に着て、デロンギヒーターで少し温め、電気ひざ掛けで足を温める。

ガスの総合評価（対灯油）

観点	評価
取扱い・臭い	◎（運搬なし・安全）
即暖性	◎
光熱費	◎（ガス安い）
CO ₂ 排出	◎（明確にガス有利）
ガスに替えてよかったです。	
南川家は建ててから35年の2階建ての家で南側に落葉樹のえごのきで夏は直射日光を葉が遮り、冬	

は葉が落ちるので太陽の熱をいれていきました。又、20年前に1階の開口部の窓はAGC（株）のもくまど（商品名）という二重ガラスにし、2階はペアグラスに変えて外との熱の移動を何割か削減して快適にしました。底冷えがなくなりました。家の窓などの開口部からの熱移動は全体の4割らしいです。

屋根はスレートで設置したが、塗装メンテナンスをする代わりに8年前にガルバリウム鋼板をスレートの上から覆う工事をしてもらいました。これで上からの太陽の熱移動も少し抑制できたと思います。

生物多様青年、冬の活動報告II

1. かぶと虫会講演会

2025年12月6日（土）両国ステーションロハスビル3階会議室にて、都立両国高校生物部OB会「かぶと虫会」主催の講演会に参加してきました。東邦大学の知人も誘い、生物学科2名、生命圏環境科学科2名の現役大学生4名が聴講しました。

プログラムは、近畿大学名誉教授 細谷和海さん「シーボルトが見た日本の水辺の原風景」、昆虫写真家 田仲義弘さん「魚・トンボ・鳥・狩蜂の変わった採餌行動」、佐賀大学名誉教授 染谷孝さん「ガイアの微生物～ヒトや動植物を支えるものたち～」の三題でした。

学識経験者の深い学問的知見による生態・標本資料の分析、生きものの営みを理解するためのユニー

2. 行徳鳥獣保護区造成50周年記念講演「研究者が語る！保護区の豊かな生き物たち」

2025年12月13日（土）南行徳市民センター2F 多目的ホールにて、NPO 行徳自然ほごくらぶ主催の講演会に参加してきました。

プログラムは、午前の第一部「陸の生き物」で行徳鳥獣保護区の陸域環境の紹介と生息するゴミムシやキノコの解説。午後の第二部「水の生き物」で保護区の水域環境の紹介と生息する魚類や干潟の生き物の解説という構成でした。

千葉県市川市にある行徳鳥獣保護区は、東京湾最奥部に埋め立て造成された人工的な自然保護区であり、長年の研究で積み重ねられた科学的知見と共に、官民学が関わり合って保全・維持されている生物多様性豊かな環境です。

新浜の話 96 ～小学生の社会科見学～

観察舎の日常の活動で、まだ書いていないことを思い出しながら拾います。

公立小学校3年生が市内各所を学ぶ機会として、社会科見学というものがありました。総合学習になってか

千葉市若葉区 鈴木 郁也

クな記録・調査方法の工夫など、並々ならぬ情熱を持った研究者たちの発表を聞くことが



参加者一同（撮影：田中正彦）

できました。自然探求の先人たちの話を通して、私たち若い世代が人生で向き合う研究がより興味深く楽しみになるような、刺激のある講演会でした。

生物多様性保全のための維持・管理において、人はどこまで環境に手を出してよいかという倫理を問う議論がありますが、この行徳鳥獣保護区は人工的な環境で生物多様性保全を成し遂げている好例として、今後の保全活動のあり方を考える際に参考にされるべきだと感じました。

生物多様性保全のための維持・管理において、人はどこまで環境に手を出してよいかという倫理を問う議論がありますが、この行徳鳥獣保護区は人工的な環境で生物多様性保全を成し遂げている好例として、今後の保全活動のあり方を考える際に参考にされるべきだと感じました。

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

らは、市内見学という名称になったのか、市内39校のうち、半数にあたる19~20校が毎年来られる時期が続きました。

1995年から2005年ごろの第3次ベビーブームで生

スローマン

作: つま あきい
⑥〇



つまあきいこウェブサイト
21世紀絵コロジ~ <https://www.zleco.net>

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年 3月号（第343号）の発送を 3月 6日（金）10時から千葉市民活動支援センター（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

.....あなたも入会しませんか.....

住所 _____
ふりがな _____
氏名 _____ Tel _____

E-mail _____
会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

またこどもたちが小学3年になった21世紀初めには、小学校の1クラスはたしか定員40名、市川市内では1学年3~5クラスが普通でした。戦後間もない1947年~1949年の第1次ベビーブーム、団塊の世代の私。その子世代の第2次が1970~1980年ごろか。わが家はぴったり1次・2次・3次そろい踏み。

前観察舎の建物は3階建てだったので、3クラスであれば1階で解説ビデオを見て、2階観察室・3階観察室を1クラスずつローテーションで。もっとクラスが多い時は野鳥病院や外の餌場の解説を加えたり、たぬきをなでまくるコーナーもこのあたりで。各コーナーがおおむね15~20分ずつ、1校あたりだいたい1時間くらい。11月ごろのベストシーズンには週に3, 4校ということもあって、それなりにたいへんでしたが、面白かったです。

十分に時間がとれて、受け入れ体制も整った時には、保護区の中を案内することもありました。近くの塩浜小学校などは、社会科見学とは別に毎年のように来られました。最初にご案内した時（たしか1990年代のはじめごろ）は、みなさん着替えを準備されて、冒険・探検気分いっぱい。当時は百合が浜の干潟（東日本大震災の時にすべり沈下で消失）がメインの場所でした。途中で溝に落ちたお子さんの着替えに手間取った私が追いついた時には、なんと水着に着替えて泳いでいる子が2人、普段着のままで泳いだ子も1人。「貝で足を切っちゃったけど、もう血が止まってるから平気」 わーっ、昨今の小学3年生がこんなにたくましい生きものだったとは。干潟を掘って泥だらけになって、ごろごろ出て来るオキシジミに驚いたり、カニをつかまえたり。ちゃんとぜんぶ放してやって、学校に戻るころはへろへろになっていたのではないかしら。

半日がかりになってしまふ保護区内の案内は、ふつうの社会科見学では無理がありました。塩浜小学校（現在は小中学校が合わさった塩浜学園）は近隣の小学校の中でも観察舎に近く、生徒さんの多くは既にご家族や友達と来ています。でも学校から観察舎までは徒歩20分以上、暑い日など往復で気分が悪くなつた子供さんが出て、保護区のご案内はなくなりました。

2007年、ふつてわいたアスベスト休館（前観察舎にアスベストが使用されていたことがわかり、急遽休館となつた。後にアスベストをすべて撤去し2008年4月に再オープン）で観察舎の建物が使えなくなつた時、それでも来てくださる学校のため、できるだけ短いコースで保護区をご案内するというのが定着してきました。観察舎正面にひろがる小島岬の干潟は、再整備工事で砂を入れたため足場がよくなり、かつての百合が浜ほど生きものは豊かではありませんが、雰囲気を味わうにはてごろ。往復小一時間、草地で小さなバッタを追いかけたり、キノコを見たり、潮まわりのよい時には途中のウラギク湿地でトビハゼやカニに会つたり、と、楽しんでいただけたと思います。

前観察舎の廃館、そしてコロナ禍と逆風が続き、幸いに後継施設として市川市立行徳野鳥観察舎（愛称あいねすと）がオープンして5年。徐々に小学生の見学も復活してきているようです。

編集後記: 千葉市緑区下大和田町計画に係る環境影響評価準備書が公表されました。<https://www.mikikanko.com/detail23.html>
説明会は、2/20(金)18:30~20:30、2/21(土)9:30~11:30 いずれも千葉市若葉公民館です。ぜひご参加ください。また、準備書について市に意見を提出することができます。(3/18まで)お一人でも多くの方に意見を出していただきたいです。よろしくお願いいたします。

mud-skipper ♀

下大和田・小山町谷津田だより -2026年2月 No. 288号-

【活動報告】

〈下大和田での活動〉 写真：田中正彦

第312回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い 2026年1月11(日) くもり・強風 報告: 田中正彦

1月は生きものたちにとって命の危機にさらされる季節でしょう。草花の多くは地上部を落とし、種や地下部を残して冬を乗り切ります。昆虫たちは卵を残したり、土や木の中に潜んだりしてやり過ごします。淋しい季節かと思いきや、この時期にだけ観られる生きものがいます。アオジやカシラダカ、ツグミなど冬鳥と呼ばれる鳥たちです。シジュウカラやエナガ、メジロなどの小鳥たちが「混群」を作ってにぎやかに現れるのもこの季節です。



この日は冬鳥を求めて、鹿島川合流部まで真冬の谷津を散策しました。強風が吹き荒れていた影響か、アオジやカシラダガがちらほら姿を見せる程度で、期待したほどではありませんでした。それでも参加者たちは、ウラシマソウの仲間のカボチャのような形の塊茎を見つけて興味津々。壊れそうな橋を渡ったり、水辺に張り出したフジづるのブランコを楽しんだりと、ちょっとした探検気分で冬の谷津を満喫しました。 参加者 18名（大人 12名、大学生 1名、高校生 1名、小学生 3名、幼児 1名）

参加者 18 名 (大人 12 名、大学生 1 名、高校生 1 名、小学生 3 名、幼児 1 名)

下大和田もちつき大会 2026年1月12日(月) 快晴

この日は餅つき大会を開催し、多くの参加者で森が賑わいました。寒い朝でしたが、大人は火を管理する人や鍋を用意する人などに分かれて準備に励みました。子どもたちはブランコで大はしゃぎ。その合間に料理を手伝ってくれた子もいました。

もち米は昨年復田した田んぼで収穫した古代米の緑米と黒米を4kg、さらに4升にするために市販のもち米を2kg使いました。また、皆さんに持ち寄ったたくさんの野菜やアジ、サバ、ウルメイワシの干物、そして餅の具材が揃いました。お味噌汁と餅の準備が終了し、いよいよ餅つきが始まりました。2升ずつ2回に分けて行い、経験者から子供までが掛け声とともに杵を振りました。ついた餅は醤油、きな粉、あんこ、大根おろし、そして納豆で食べました。お雑煮にするも人気でした。つきたては柔らかくてとても美味しいかったです。

片づけが終了すると、最後に記念写真を撮ってから解散しました。晴天の下での楽しい餅つき大会になりました。ご馳走さまでした。

参加者30名（大人18名、大学生1名、高校生1名、中学生2名、小学生6名、幼稚2名）

森と水辺の手入れ「草刈りとタラの芽のふかし栽培」 2026年 1月18(日) 快晴 報告：鎌木郁也

はじめの一時間は刈払い機三台で草刈りを行い、東屋の後背地の台地の上は繰り返しの手入れでだいぶさっぱりと見映えのよい景色となりました。作業終了後、お楽しみとして「タラの芽のふかし」をしました。

タラの芽は山菜の王様とも呼ばれ、おいしい山の恵みとして有名です。リボンをつけて残されたタラの木を、大人の肩あたりで切り、伐採した先の木を15cm間隔で芽を残すようにして切り分けていきます。そして、芽の生える方を上にして水の張った入れ物に立てれば完成です。水換えなど、きちんとお世話をすれば1～2ヶ月後には芽が出はじめるそうです。山菜のお世話を通して植物の生命力に触れることも、自然と親しむ一つの方法ではないでしょうか？ 参加者13名（大人8名、大学生1名、高校生1名、小学生2名、幼児1名）

森の手入れ「森の草刈り」 2026年 1月25（日） 晴れ

冬らしく晴れ渡り、気持ちのよい空のもと、先週に引き続き「リスが住みたくなる雑木林」を目指し、タラの木広場周辺で森の整備を行いました。刈り払い機（2機）や切り鋏を使用し、過度に繁殖し、育成対象樹木の芽や幼木の生育を阻害しているヌルデやアカメガシワ、ササの下刈りを行うとともに、鋸を使って樹木の除伐を実施しました。これにより、リスの食料となるクルミやクリの芽、幼木に十分な日光が届く環境を整えることができました。また、伐採したヌルデ

報告：石井健登



やアカメガシワは、子どもたちと一緒に運び、森の中の道の目印として活用しました。寒さの厳しい時期ではありますが、心地よい日差しのおかげで、森の中での作業はとても気持ちよく感じられました。

小学1年生と年少の子どもたちは、それぞれ「自然観察会用に道を作った!」「笹の葉が手袋にくっつくのが不思議だね」などと話しながら、自分にできることを見つけ、新しい発見を重ねつつ、整備中の森の中で生き生きと活動していました。

参加者12名(大人8名、大学生1名、小学生2名、幼児1名)

<小山町での活動>

☆第238(1)回 小山町 YPP「田んぼと林の手入れ」1月18日(日)晴れ 報告:江澤芳江

「20年ぶりに谷津田に来ました」というボランティアの方も含め6人での作業でした。最初は学校田んぼ脇の暗渠にまで広がっていた土を畦に積み上げる作業。あっという間に終わって、次は谷津田際の斜面林の篠竹、アオキの伐採をしました。「篠竹はイノシシのすみかになる」という話も聞きながら一生懸命切っていたら体もホカホカに温まり、斜面林もだいぶスッキリしました。「大勢で作業するとどんどん進んですごいなあ」と改めて思いました。

参加者6名(大人6名)

☆第238(2)回 小山町 YPP「田んぼと林の手入れ」1月23日(金)晴れ 報告:柳町健治

天気に恵まれた中、ボランティア含め8名のメンバーで前回に引き続き、谷津田の際まで繁殖してきた篠竹をメインに伐採を行いました。おかげさまで風通しの良い斜面林ができつつあります。作業の後、皆で地主さんを囲んでの楽しい団欒もありました。

参加者8名(大人8名)

【谷津田・季節のたより】 2026年 1月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

1/24 谷津田でシジュウカラ、シロハラ、アカハラが姿を見せてくれました。U字溝から1羽のヒクイナが飛び出し、田んぼに入りました。田んぼにもう1羽のヒクイナがいて、計2羽に。ヒクイナは、以前は夏鳥でしたが今では冬でも見ることができます。昨年復田した田んぼわきの小川に残っていたウシガエルの畠に、小型のウシガエルが入っていました。休眠状態でした。可哀そうですが駆除しました。

<小山町> 報告 高山邦明

1/2久しぶりにキセキレイの姿を見る。 1/5センダンの実を食べに集まっていたヒヨドリがオオタカの姿を見て一斉に飛び立つ。 1/6全面に張った田んぼの氷の上でセグロセキレイが足を滑らせながら餌探し。 1/12アオバトの鳴き声を聞く、スギの木のてっぺんにノスリが止まり谷津を見下ろしていた。 1/13冷え込みで田んぼに氷が張っているせいか、水が流れるコンクリート水路の中でヒクイナが餌をさがす、ガビチョウがキビタキの鳴きまね、ミソサザイの姿を見る。 1/16林の木の枝に止まっているオオタカをハシボソガラスがしつこくモビング。 1/22今季初めてタシギの姿を見る。 1/26クサシギが2羽で田んぼの周りを飛翔。 1/27コガモ4羽が田んぼに来ていた。 1/28水辺をあまり離れないセグロセキレイが畠でハクセキレイと一緒に餌を探していた。

【イベントのお知らせ】主催:NPO法人 ちば環境情報センター

<下大和田谷津田> 連絡先:小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

・森と水辺の手入れ

日 時: 2026年 2月15日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内 容: マイ田んぼ復活のための整備と森の木の整備などを行います。

持ち物: 長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費: 無料

・森の手入れ

日 時: 2026年 2月22日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内 容: 森の木の整備や下草刈りを行います。

持ち物: 長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費: 無料

・第314回 観察会とゴミ拾い

日 時: 2026年 3月 1日(日) 9時45分~12時 雨天決行

内 容: ニホンアカガエルの卵塊調査を中心に、春を迎える谷津と森を巡ります。

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費: 100円

<小山町谷津田>

・第239(1~3)回 小山町 YPP「田んぼと林の整備」1月に続いて田んぼや林の手入れをします。

日 時: 2026年 2月14日(土), 16日(月), 27日(金) 10時~12時 ☆小雨決行

場 所: 小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物: できればくるぶしまで覆う丈夫な靴や長靴(田んぼには入りませんが、竹やぶやぬかった道を歩くので)・軍手・飲み物☆どなたでもお気軽に参加いただけます。

初参加も歓迎です! 参加のご希望、お問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.comまでメールでご連絡下さい。

